

英語科学習指導案

平成16年12月1日(水) 第5校時

2年B組 指導者

基礎コース 柴田祥子

2階少人数教室

発展コース 永峯正隆、テレサ・パウエル 2B教室

1. 題材名 Unit6 Christmas Is Coming (東京書籍 New Horizon 2)

2. 考察

(1) 題材観

本題材では、クリスマスに関わる内容が取り上げられている。提供される場面は、2つに分けられる。前半部は、クリスマスを間近に控えたある家の中の様子である。その家は、オーストラリア出身で現在日本に住んでいるマークのオーストラリアの家である。居間には、飾り付けられたクリスマスツリーやプレゼント、また壁にはクリスマスカードが貼られている。そして、そのカードの中の2枚を特に取り上げた対話があり、その内容から南半球のクリスマスの様子も伺える。後半部では、今ではポピュラーになったクリスマスソングの一つ、「きよしこの夜」の誕生由来が物語形式で語られている。

文法事項としては、前半部で物の存在の表現方法である **There is** の構文を学習することになる。この学習を通して、家庭や学校、あるいは地域に存在するものを容易に表現できるようになる。したがって、自分達の学校や地域についての情報や事柄を相手に伝え易くなり、コミュニケーション能力の広がりが期待できる。後半では、動名詞が目的語となる場合と主語になる場合の用法が新出する。動詞の-ing形が、名詞の働きをする場合の用法を学習する。**There is** 構文と合わせて、コミュニケーション能力の向上につながる態度を育てたい。

(2) 題材の系統

< 言語材料 >

- ・ **be** 動詞：1年生...現在形、2年生...過去形 ・ 現在分詞：1年生...現在進行形
- ・ 不定詞の名詞的用法：2年生...Unit3 ・ SVC... 1年生

< 内容 >

- ・ オーストラリア：1年生「南半球からのメール」「外国からの友達」「ようこそオーストラリアへ」「夏の冬休み」
「それぞれのお正月」
- ・ クリスマス：「Happy Christmas」「グリーティングカード」

(3) 生徒の実態

本学級は、男子13名、女子11名、計24名であり、基礎コース9名、発展コース15名である。一学期の中頃までコースの区別なく授業を進めてきたが、その間に実施したユニット終了時の単元テストと本人の希望により、基礎と発展に分割した少人数指導に移行した。少人数になってからの生徒の様子は、以前にもまして集中力が高まったことやパフォーマンステストにおいて目標到達に向けて繰り返し発表に挑戦する生徒が増えたことである。指導と評価の一体化が生かされている場面と言える。本ユニットを学習するにあたり、既習事項の確認として次のような試問を実施した。

次の文を()内の指示にしたがって書き換えなさい。

ア This is a present from my friends. (a を some にして : be 動詞の変化)

正答率～基礎コース 22% 発展コース 80%

イ That is a present form my mother. (a を some にして : be 動詞の変化)

正答率～基礎コース 22% 発展コース 80%

ウ	The book is interesting. (book を books にして : be 動詞の変化)	正答率 ~ 基礎コース	55%	発展コース	80%
エ	He sings a song. (進行形に)	正答率 ~ 基礎コース	22%	発展コース	73%
オ	It was cool yesterday. (疑問文に : be 動詞がある場合の疑問文)	正答率 ~ 基礎コース	67%	発展コース	93%
カ	She is in the hospital. (否定文に)	正答率 ~ 基礎コース	67%	発展コース	93%
キ	She likes (play) soccer. (play を正しい形に : 目的語の変化)	正答率 ~ 基礎コース	11%	発展コース	57%

本ユニットへの語法上のレディネスの平均は、基礎コースが約 38%、発展コースが約 80% である。

<基礎コース>

本コースは、男子4名、女子5名、計9名の生徒からなる。少ない人数だが、前向きにコミュニケーション活動に取り組み、発問にも自然な反応がある。基礎といっても、学習に対して消極的ということではなく、取り組みは一生懸命であり、言語活動では楽しんでいる様子も感じられる。評価項目では、おおむね満足に達する生徒が多く、十分満足まで達する生徒も数人いる。話す・書く活動では、教科書の例文と同様または少し変化させる会話活動や作文には十分取り組める。しかし、例文なしで自分の意見を言うことや作文することは難しく、苦手意識を持っているように感じられる。聞く・読む活動では、挿し絵があり短い文の場合は、ほぼ理解している。長い文になると、取り組むことが困難な生徒が出てくるほか、正答率も下がっている。新出単語、新出言語の定着は、反復練習で、その意味を理解している生徒が多く、単元テストでも正解が多い。複雑な語順の並べかえでは、わからない生徒が出てくる。また、既習事項の試問の結果に見られる通り、単元終了時には理解できていることや教師の言葉添えがあると気が付いてできる問題でも、学習してから時間が経過すると忘れてしまい、自分の力では思い出せない生徒が多い。問題の(キ)では不定詞の名詞的用法を問う問題であるが、できていないので、その部分の復習も兼ねて、新しい動名詞を取り上げていく必要がある。

英語の授業に関する意識調査では、次のような回答が出ている。

1.	「聞く、話す、読む、書く」の中で、好きな活動は何ですか？(複数回答可)
	聞く(2) 話す(6) 読む(0) 書く(3)
2.	「聞く、話す、読む、書く」の中で、苦手な活動は何ですか？(複数回答可)
	聞く(2) 話す(1) 読む(6) 書く(5)
3.	「聞く、話す、読む、書く、単語力」の中で、付けたい力は何ですか？(複数回答可)
	聞く(3) 話す(5) 読む(7) 書く(4) 単語力(5)
4.	英語の授業について日ごろ感じていることを書いてください。
	・難しい ・英語は覚えにくい ・もう少し聞く力を付けたい
	・楽しい ・難しいときもあるけれど楽しい ・演技をしたりしてとても楽しい。
	・少人数に分かれてからは自分の意見を言うことが多くなったと思う
	・コースが分かれているので、自分にあっている方が選択できて、自分のペースで学習できるのでいい
	・分かりやすいし、分からないところも質問しやすい ・分かりやすい
	・基礎に入って単語を書けるようになった

<発展コース>

本コースは、男子9人、女子6人、計15名の生徒からなる。前出の既習事項の試問の結果は、次のようになっている。発展コースに関わるものは、(ア)(イ)(ウ)の主語の複数化にともなう be 動詞の変化と、(オ)(カ)の be 動詞がある場合の疑問文への書き替え問題である。ほとんどの生徒が正しく答えられたが、3名の生徒が誤答であった。その内訳は、2名の生徒が be 動詞の

脱落、残り1名が is から are への書き替えができなかった。本時の活動において、これらの生徒の弱点補強に配慮したい。

コミュニケーション活動には意欲的に取り組んでいる。特に男子の数名が活発であり、先導的な活動ができる。女子は比較的静かな取組であるが、要所要所での発言などは男子にひけを取らない。女子の中の1人に、コミュニケーション活動を不得手とする生徒が含まれる。この生徒は、普段の学校生活の中でも仲間と会話を交わすことが少なく、話す声も聞き取りにくい。授業中の活動では、開始時に教師が意識的に対応している。その後は仲間の中へ入って活動している。学力的には、上位に位置する生徒である。本時での活動を支援していきたい。

スキットによる表現活動などでも、先を競って活動に取り組める生徒が多い。リーディングによる理解や、リスニングの理解力も高い方である。シャドウイングなどにも意欲的である。

文章表現なども、構成力があるほうである。主語や動詞の捉え方を、日本文と英文の意味の一致する部分にカラーペンでラインを引かせてきた昨年度からの取組が効果を見せている。また、パフォーマンステストなどでの発表活動などにも、その効果を感じ取ることができる。

(4) 指導方針及び留意点

- ・ 英語を使うことに慣れるために、何気ない質問や対話などで、生徒が英語を使える雰囲気を作る。
- ・ 生徒の自己評価カードを見て、個々の生徒の学習状況を把握しながら、授業に取り組むようにする。
- ・ 生徒が興味を持って取り組めるように、言語活動を工夫する。
- ・ 指導時間内の指導と評価の一体化をねらい、生徒が自信を持てるように生徒の活動や発言をほめたり、改善点を伝えフィードバックに生かす。
- ・ 互いの授業内容について英語教員3名が適宜情報交換を行うように努める。

(5) 授業中における生徒指導

- ・ 温かい雰囲気の授業に努める。
- ・ 生徒が全員で一斉に活動しているときでも、一人一人の生徒の言動に注目し、個別指導に努める。
- ・ 指導と評価の一体化を目指し、生徒のやる気につながる評価の言葉がけを行う。

(6) 校内研修との関わり

指導と評価の一体化については、授業後生徒が記入する自己評価カードに基づき、生徒が学習内容を理解したかを確認し、そのカードに助言や励ましの言葉を書いている。理解がまだ不十分であると書いた生徒については、次の授業で配慮するようにしている。効果的な学習課題及び教材の提示については、生徒がおもしろいと感じ、新出言語材料を繰り返し使える活動を考えるようにしている。特に基礎コースの生徒は、話すことが難しいのでやらないという気持ちにさせないように、予定時数内で可能な限り、生徒の実態に合った言語活動を行っていきたいと考えている。発展的な課題については、進度が速い発展コースを中心に、新出言語材料と既習事項を用いて、話す・書く活動を多く取り入れている。また、その活動には、生徒の意見や考えを盛り込める課題となるよう考えている。

3. 指導計画 (全 11 時間予定 本時は 2 時間目)

本題材の目標		評価規準			
		コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
<p>・日本のクリスマスと比較しながら、外国におけるクリスマスの風習やクリスマスによく耳にする音楽にまつわる歴史を理解する。</p> <p>・There is / are ~.と動名詞の用法を言語活動を通して理解し、自分の考えをこれらを含む英文で表現する。また、聞く、読む活動を通して、これらを含む英文の内容を理解する。</p>		<p>・英語を話す、書く活動を通して、自分の意志や考えを、相手に英語で伝えようとしている。</p> <p>・英語を聞く、読む活動を通して、その内容と理解しようとしている。</p>	<p>・話す、書く活動の中で、新出表現を適切に使い、自分の住む町や紹介したい人物、クリスマスカードや招待状で自分の考えを表現している。</p>	<p>・聞く、読む活動の中で、新出表現を含む英文の内容を理解し、感情表現を付けながら音読している。</p>	<p>・外国におけるクリスマスの風習やクリスマス音楽にまつわる歴史、日本のクリスマスとの比較を説明している。</p> <p>・新出単語、連語、There is/are の文を理解している。</p>
学習活動	時間	観点			評価項目 [方法]
					十分満足できると判断される状況 おおむね満足できると判断される状況
動名詞 (基礎) There is / are (発展) の言語活動と用法理解	1				言語活動を通して、自分の意志や考えを相手に伝えようとしている。[カード、観察]
					言語活動を通して、英語を使おうとしている。[カード、観察]
動名詞 (基礎) There is/are(発展) を含む英文を使い、自分の考えや意見を聞き手に伝える	1 本時				言語活動を通して新出言語を理解し、正しく使ってプリントやワーク問題が 9 割程度正解している。[点検]
					言語活動を通して新出言語を理解し、正しく使ってプリントやワーク問題が 6 割程度正解している。[点検]
There is/are(基礎) 動名詞 (発展) の言語活動と用法理解	1				自分の意志を、話す・書く活動で、相手に英語で伝えようとしている。[カード、観察]
					話す・書く活動で、英語を使おうとしている。[カード、観察]
There is/are(基礎) 動名詞 (発展) の言語活動と用法理解	1				新出表現を適切に使い、自分の住む町や紹介したい人物を、自分の考えを話につながるのある 5 文程度の英文で聞き手にわかるように伝えたり、書いたりしている。[観察、点検]
					新出表現を使いながら、自分の住む町や紹介したい人物について、自分の考えを 3 文程度の英文で聞き手に伝えたり、書いたりしている。[観察、点検]
There is/are(基礎) 動名詞 (発展) の言語活動と用法理解	1				言語活動を通して、自分の意志や考えを相手に伝えようとしている。[カード、観察]
					言語活動を通して、英語を使おうとしている。[カード、観察]
There is/are(基礎) 動名詞 (発展) の言語活動と用法理解	1				There is/are (基礎) 動名詞 (発展) の文を言語活動を通して理解し、正しく使ってプリントやワーク問題が 9 割程度正解している。[点検]
					There is/are (基礎) 動名詞 (発展) の文を言語活動を通して理解し、正しく使ってプリントやワーク問題が 6 割程度正解している。[点検]

教科書 Starting Out Dialog	1				<p>新出単語、連語、There is/are の文を理解し、外国におけるクリスマスの風習について、日本のクリスマスとの比較を含め、2つ以上、説明している。[点検]</p> <p>新出単語、連語、There is/are の文を理解し、外国におけるクリスマスの風習について、1つ程度、説明している。[点検]</p>
教科書 Reading for Communication	2				<p>辞書を使いながら英文の意味を把握しようとしている。[カード、観察]</p> <p>わからないことを人に聞いて、英文の意味を理解しようとしている。[カード、観察]</p>
					<p>教科書の英文を読み、内容についてのQ & Aで、9割程度理解し、ノートに日本語訳している。また、理解した内容を相手に伝えるように、感情豊かに音読できる。[点検]</p> <p>教科書の英文を読み、内容についての True or False 問題で、3問中2問程度正解し、ノートに日本語訳している。また、声に出して音読している。[点検]</p>
					<p>外国におけるクリスマス音楽にまつわる歴史について、2つ以上、説明している。[点検]</p> <p>外国におけるクリスマス音楽にまつわる歴史について、1つ程度、説明している。[点検]</p>
教科書 Writing Plus 3	1				<p>適切な表現を使いながら、クリスマスカードや招待状に自分の考えを添えて、6文程度の英文で書いている。[点検]</p> <p>適切な表現を使いながら、クリスマスカードや招待状に自分の考えを添えて、4文程度の英文で書いている。[点検]</p>
教科書 Listening Plus 6、 Multi Plus 4	2				<p>メモを取る、聞き返すなどして英文を聞いて理解しようとしたり、辞書を使いながら英文の意味を把握しようとしている。[評価カード、観察]</p> <p>わからないことを人に聞くなどして、英文を聞いたり、英文の意味を理解したりしようとしている。[評価カード、観察]</p>
					<p>新出表現を適切に使い、自分の住む町や紹介したい人物を、自分の考えを5文程度の英文で聞き手にわかるように伝えたり、書いたりしている。[観察、点検]</p> <p>新出表現を使いながら、自分の住む町や紹介したい人物について、自分の考えを3文程度の英文で聞き手に伝えたり、書いたりしている。[観察、点検]</p>
					<p>新出表現を含む聞き取り問題で、9割程度正解している。[点検]</p> <p>新出表現を含む聞き取り問題で、6割程度正解している。[点検]</p>
単元テスト	1				<p>会話テストで、視線を合わせ、自分の意見を伝えようとしている。[観察]</p> <p>会話テストで、自分の意志を伝えようとしている。[観察]</p>
					<p>各観点の問題で、9割程度正解している。</p> <p>各観点の問題で、6割程度正解している。</p>
テスト直し	1				<ul style="list-style-type: none"> ・間違い部分を自分で直す。終わった生徒は、基礎的または発展的内容の学習に取り組む。 ・全員が直し終わり、時間に余裕がある場合には、次の題材へ進む。

< 発展コース >

授業の視点
川場村の中心地の航空写真を見ながら Is / Are there ~ ? の文を含む対話活動を行ったことは、地域の事柄を表現するための有効な手段となり、コミュニケーション活動の活性化に効果的であったか。

(1) ねらい Is / Are there... ? の意味や用法を正しく理解し、それを用いて地域の事柄について、視線や声の大きさに注意しながら対話活動をしている。

(2) 準備

- ・ 教師：川場村の写真（本村のカレンダーを使用）、ワークシート、目標文のカード、相互評価用紙、教科書
- ・ 生徒：教科書、ノート、ワークブック、自己評価カード

(3) 展開

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項	評価項目
導入	あいさつ Warm Up (前時の復習) ・ 3人1組で対話活動を行う。	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ Warm Up の説明をする。 ・ 3人1組になって対話活動を行わせる。場面は川場村役場前の通りで、そこで有名な外国人に偶然会う。有名人の求めに応じて、好みの場所を紹介する活動である。対話の中には、前時の復習である There is / are の文を取り込ませる。 ・ 必要に応じて口ごもる生徒の支援を行う。 	
展開	目標文の確認 対話文を理解し、目標文を把握する。 (Input)	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ JTE&ALT により、川場村の写真を提示しながら Is / Are there...? の構文を含む対話を聞かせる。(JTE が ALT に質問する。) ・ 対話内容の説明と目標文を提示し、Is / Are there...? の構文とその答え方を理解させる。 	[関心・意欲・態度] 自分の意志を、話す活動で、相手に英語で伝えようとしている。[カード、観察]
基礎練習	対話活動 1 生徒の活動は 3人組で行う。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 航空写真を用いて地域に存在する施設などについて、基本的な対話活動となる Is / Are there...? を用いた Q & A 活動を十分行わせる。 ・ 生徒の活動の様子を見ながら正しく対話がなされているかどうか、支援にまわる。 	話す活動で、英語を使おうとしている。[カード、観察]
	発表活動のための英文をワークシートに記入していく。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本練習である対話活動 1 をさらに発展させて、自分の考えも取り入れてワークシートの対話文をメモ書きさせる。手間取る生徒には仲間に手助けさせる。 ・ ワークシートを仕上げたら地域に存在する施設などについて対話練習を行わせる。 ・ 生徒の活動の様子を見ながら正しく対話がなされているかどうか、JTE と ALT が支援を行う。 ・ 対話の流れに遅れがちな生徒には、同班の仲間に手助けさせる。 	[表現の能力] 新出表現を適切に使い、自分の住む町について、話につながるの 5 文程度の英文で、視線や声の大きさに注意しながら、聞き手にわかるように伝えようとしている。[観察、点検]
発展活動	発表活動 (Output) ・ We'll tell you about our hometown. ・ 3人組による発表を行う。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川場村の写真を見ながら各班 3 人による対話を発表させる。 ・ 各班の発表毎に評価の助言を加える。各班の対話発表が終わったところで、さらに向上を目指して発表する班があれば発表させる。 [指導と評価の一体化] ・ 友達の発表を相互評価表に記入させる。相互評価表は自己評価の時間に該当者に渡す。 	新出表現を使いながら、自分の住む町について、3 文程度の英文で聞き手に伝えようとしている。[観察、点検]
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の目標文を使い生徒に Q & A で学習内容を確認する。 Ex: Is/Are there ~ in Kawaba ? What are there around here ? 	
まとめ	自己評価、あいさつ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相互評価用紙を該当する生徒に返す。 ・ 自己評価カードに記入させる。 	

